

2022年9月16日

【加藤】 それでは、5時2分で、さっきからの二、三分を見ている追加の方があまりいらっしゃらないので、今日は比較的参加の方が少ないかなと思いますが、そろそろ始めさせていただきたいと思います。予定が変わって金曜日ということで、いろいろと御都合悪い方もいらっしゃると思いますが、御参加ありがとうございます。

今日は、河内さんからは1時間ぐらい遅れるという御連絡をいただいていますけれども、あと、高松さんはあれですが、堀田さんも御出張中で参加しにくいと伺っていますけれども、前村さんとか、いつもいらっしゃる方々は、今日はどんな御様子ですかね。もし山崎さんが把握されていれば教えていただけますか。

【山崎】 前村は最大30分遅れる見込みです。立石さんが、飛行機が遅れるので参加が難しくなったという御連絡をいただいています。

【加藤】 そうですか。立石さんも前村さんも、たしかシンガポールにいらしていたんですね。

【山崎】 そうだと思います。

【加藤】 分かりました。ごめんなさい。あと、大体そんな感じですか、さっきの河内さん。

【山崎】 はい。あとはちょっと分かりません。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

それでは、まずこのメンバーでスタートさせていただきたいと思います。予定のアジェンダに沿って、まず、飯田さんのお名前がお見受けするんですけども、総務省からまず御報告等いただけますでしょうか。

【山崎】 本田さんから手が挙がっていましたがけれども。

【加藤】 そうですか。ごめんなさい、ちょっと見落としていました。本田さん、何かございますか。新しい参加者もいるので御挨拶をいただいているのは、全員がですか、それとも私がですか。

この活発化チームの今、チェアを拝命しております加藤です。今日はよろしく願います。

それでは、そういうことで、全員のロールコールは今まであまりやっていないので、もし御挨拶される方がいれば別ですけれども、そうでなければ、このまま進めさせていただきたいと思います。

飯田さんのお名前、拝見するんですけれども、飯田様いらっしゃいますでしょうか。お願いいたします。今、退席されていますかね。飯田様か総務省の方、どなたかございますか。

それでは、今、退席されているか、何か御事情がおありのようなので、後ほど御発言いただくということで、このスケジュールでいきますと、MAGの河内さんも遅れて来られるという予定ですので、秋イベントについてということで、堀田様もあれですが、上村さんは今日はいらっしゃるのでしょうか。

【山崎】 山崎ですけれども、上村さんは今日御都合が悪いので、堀田さんに代理を依頼されておりましたが、堀田さんも難しくて……。

【加藤】 堀田さんもリモートですよ。

【山崎】 高松さん。

【加藤】 高松さんからお願いできますか。

【山崎】 堀田さんの状況を御存じでしたら共有いただきたいと思うんですけれども。

【高松】 すみません、高松です。堀田が30分ぐらいは別の打合せが延びていて参加できない状態になっており、代わりに秋イベントの話が私からできるかということ、申し訳ないんですが、できないという状態です。申し訳ないです。

【加藤】 そうですよ。秋イベントの件は上村さんか……。

【山崎】 山崎ですけれども。

【加藤】 山崎さんからお願いできますか。

【山崎】 私から簡単というか、書いてあるとおりの報告できないですけれども、簡単に共有させていただいて、後で堀田さんが……。

【加藤】 そうですね。おいでになった方の順番でお願いします。

【山崎】 台湾の方が自己紹介なさりたいみたいなので、それを先にもお願いしてもいいんじゃないでしょうか。

【加藤】 ホンさん、それでは、よろしくをお願いします。

【ホン】 皆さん、こんにちは。台湾から、ホン・ウェイティンです。先日シンガポールで飯田さんの紹介も聞きました。私自身は、先日は、青年ユースIGFに参加しました。それで、日本人の方々が少ないかなと、青年の分野から見ると、参加者が少ないかなと思って、今回の機会がたくさん交流ができたらいいなと思って参加します。

私は、台湾陽明交通大学の4年生、専攻は情報工学です。よろしくをお願いします。

【加藤】 ホンさん、ありがとうございました。御指摘のとおり、この日本のグループは、ぜひこれからユースの方々の参加をもっと高めたいと思っておりますので、刺激を下さい。よろしくをお願いします。

【ホン】 はい。お願いします。

【加藤】 ありがとうございます。それでは、山崎さん、お願いできますか。

【山崎】 プログラム委員会からの報告ということで、上村委員長、堀田副委員長が御都合が悪いので、代わって簡単に御報告します。山崎と申します。

8月30日に第7回のプログラム委員会を行いました。まずは進捗状況の確認を行いました。各公募したセッションについては順調に進んでいますけれども、メインセッションとNew comer向けセッションについての確定は遅れぎみということです。開催アナウンスが8月31日に開始する予定だったんですけれども、これからは遅れまして、皆様御覧のとおり、今週9月12日に行いました。

2番目ですけれども、テーマセッションのフォローアップということで、テーマセッションというのは、公募して応募いただいたセッションが4つあるんですけれども、そのフォローです。日程について調整中と、このプログラム委員会の時点ではなっていました。日程の確定は次回のプログラム委員会までの完了を目指すということで、次回のプログラム委員会は再来週ですので、それまでには終わると思います。

3番目のメインセッションはプログラム委員会がつくるセッションですけれども、この内容は改めて調整するというので、ブレーストーミングは行っているいろいろな内容は出ましたけれども、詳細は今後、検討を引き続きやるということになっています。メタバースのガバナンスの関係のセッションというものがあつたんですけれども、これはメインセッションではなくてプライベートとして10月26日に切り出すということになりました。

4番目のNew comer向けセッションですけれども、これはセッションの4つの要素ということで、IGFそのもの、インターネットガバナンスの全体的な説明、今年のIGF、エチオピアで行われるIGF 2022の紹介、来年日本で行う予定のIGF 2023の予告、会場というか参加者との対話、これらをどう組み合わせるかについて検討しました。インターネットガバナンスにおける論点を紹介するのに、去年のIGFでAPC、Association for Progressive Communications (APC)というところが開催したワークショップ、Imagining the Future of International Internet Governanceの素材、ビデオが使えないか問い合わせるということになりました。ほかの詳細は引き続き検討するということになっています。

5番目、次のロジ関係ですけれども、ハイブリッドでやるということで会場が必要ということで、神田にあるエッサム神田ホールになりました。第7回のプログラム委員会のときはまだ仮予約だったんですけれども、その後、そこで確定しています。受付について素案を作成するということになっています。これはさっき申したとおり、12日のアナウンスのときに申込みの受付は開始しております。

外部との連携、これはエンゲージメントということだと思いますけれども、これについては議論する時間がありませんでした。

ほかに、9月8日に国連IGFのミッションが来日しましたので、そこで何を話すかという内容の確認をしています。

詳細はアジェンダ+メモというところを書いてありますので、こちらを御参照いただければと思います。

この第7回の会議が終わった後の進捗ですけれども、プライベートですが、Day 0、つまり10月26日、1日前、この日に、プライベートを実施することになりました。内容は、バーチャル美少女ねむさんという方が登壇されるトークイベントになります。この日はハイブリッドではなくてオンラインのみということになります。

New comersセッションについては、セッションに登壇する前村、河内さん、飯田さんに進行を検討していただく方向になっています。

先ほどのワークショップ252、IGF 2021の素材の利用についてはAPCから承諾を得ております。

開催案内については12日に行ったということです。

会議のウェブページもつくりました。アナウンス内容とほぼ一緒です。

あと、この活発化チーム自体で検討していただきたい事項が幾つかあります。まず最初に、今回のフォーラムについて後援団体から後援を得るかどうか1つ。前は主催が活発化チームということで、総務省とか後援していただけたところも中に入っているということで、後援はなしとなったと思います。

2点目は、Day 1とDay 2で挨拶をどうするか。挨拶がかなり長くなる場合は時間配分の見直しも必要になるかもしれないです。候補として、先日8日に来日されていて、我々と話していただいた国連IGFの事務局がビデオメッセージを送っていただけそうということです。IGF2023を主催する総務省、もしくは関係するところ、今後つくられるであろうIGF 2023向けの協議会の主要プレーヤーが挨拶するなど、ほかに有識者などという可能性があるかなというところですね。

3点目は、形式上、協賛・協力を表現するかというのは、このイベントを開催するに当たって会場費とかを支払うことになりましたので、JAIPAさんとJPNICで折半したんですけれども、その点について表記するかどうかという辺りです。この3点について、活発化チームで検討していただきたいというのがプログラム委員会の意図だったと思います。

私からは以上ですけれども、プログラム委員の皆様、何か抜けている点とかありましたら御指摘いただければと思います。

以上です。

【加藤】 山崎さん、ありがとうございます。プログラム委員の方、もし追加コメントがあればお願いしますし、<聞き取り不能>ここでお願いいたします。いかがでしょうか。

プレイベントというDay0として企画いただくということですね。

【山崎】 はい。ですから、メインセッションではなくて、別にDay0として切り出したセッションを10月26日、つまり、27日のDay1よりも1日前にやるということです。

【加藤】 あと、ハイブリッドで神田のホールを<聞き取り不能>いただいたんですけども、<聞き取り不能>とかどれぐらい入れるかというイメージはいかがでしょう。

【山崎】 101名となっていますけれども、感染症などを考慮して50名の定員としております。場合によっては、もっと絞ったり、または緩めたりという可能性はあります。

【加藤】 そうしますと、登壇者の方もかなりフレキシブルにできるし、50名いれば実際、物理的にそこに参加される方はかなり余裕があるというイメージでよろしいですね。

【山崎】 はい。

【加藤】 ありがとうございます。本田さんから手を挙げていただいているので、ここで本田さんに切り替えます。本田さん、よろしく申し上げます。

【本田】 イベントは、そもそも私、活発化チームの主体というかアレンジというか、一参加者でもあり、コーディネーションをいろいろしていただいているということがJAIPAさん、JPNICさんという認識でいたんですけども、秋イベントも、要はまだ任意団体というか、団体として組成していないので、ということもあり、会場のアレンジも含め、JAIPAさん、JPNICさん、両方が事務局になっていただいているという認識でいたんですが、そこは間違いないですか、山崎さん。

【山崎】 そういう認識ですけども、それが明文化ということが外から見るとはなされていらないようなので、一部、指摘する方もいらっしゃるということだと。

【本田】 いろいろなことを言う人がいますから、別に特定の誰がというわけじゃないんですが、上村先生もこの前、プログラム委員会の中のメールのやり取りで、JAIPAは事務局に入っていませんよみたいな話をされていたので、私の認識としては今言われたように、本会合、いわゆる活発化チームもそうだし、今回の秋イベントも、JAIPAさん、JPNICさん両方が事務局というか、いろいろな細かいハンドリングも含めて、ロジスティックも含めて支援していただいている、そして一参加者としても御参加いただいているという認識ですけども、そこは間違いないということと、あと、挨拶がいわゆるIGFとか総務省というのは来賓挨拶になると思うんですが、加藤さんがやはり活発化チームの今のリードをされている

ので、加藤さんに挨拶していただくのが順当ではというような声もありましたと、そこは付記しておきます。

【加藤】 ありがとうございます。最初のJPNICさん、JAIPAさんを表記するかというのは、先ほど山崎さんからそういう御質問というか御指摘があったということと重なるので、活発化チームとしては、何らかの形で事務局機能といいますか、支援をさせていただいているJPNICさん、JAIPAさんを表記する方法を今後考えたほうがいいんじゃないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

これ、最初の山崎さんから御指摘があった、総務省さんを含め後援とかそういうところをどうするかというのも若干関係するかもしれませんが、皆さん何か御意見ありますか。

本田さん、お願いします。

【本田】 私はまだ子供なんで、あんまりそういうのは分からないんですが、一応大きな組織だと、総務省さんが入っているというのと、「おっ」というふうになるというか、結構そういうイベントとか、いわゆる通信系のイベントとかも、総務省の方を呼ぶと、いわゆる集客といいますか、信用度が増す部分もあるわけで、昨今のいろいろな状況で総務省の後援名義までは取れないかもしれないけれども、協賛・協力、実際にメンバーには入っているわけですから、そういった部分を表記していただくというのは大変ふさわしいことじゃないかなと思いますし、JAIPAさん、JPNICさんも今確認したように相当程度貢献をさせていただいているわけですから、組織参加という部分については明らかに明示をすべきだと私は考えます。

【加藤】 ありがとうございます。山崎さん、いかがでしょうか。

【山崎】 山崎です。本田さんの今の御意見に対して、重箱の隅系かもしれないんですけども、プログラム委員会内の議論で、協賛とか協力とかというのと、お金を伴う支援だと定義されている方とか組織もいらっしゃるようで、総務省さんを協賛とか協力にしちゃうと、その辺でまずかったりするんじゃないかなということのを思いました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方、御意見いかがでしょうか。総務省さんを後援か何らかの形でメンションする、これについては、d昨年度は、実際この活発化チームというのは総務省さんのメンバーもたくさん入っていらっしゃるので、それを御存じの方か

ら見ると、このグループ自身が総務省さんが参加されているということで、それをあえて書くことはないと思われる方もいるんじゃないかということだと思いますけれども、その辺も踏まえていかがでしょうか。

【木村】 すみません。JAIPAの木村です。総務省さんの後援は、後援の名義の申請書を出して御承認いただかないといけないと思うんです。以前もJapan IGFのイベントでは何回か後援はいただいていたと思うんですけれども、名前だけの後援ですが。

【加藤】 そうですね。そういう意味で次に伺おうと思ったのは、総務省さんとして後援という言葉がいいのか、総務省も参加していただいているということを何かの形でメンションする方法がほかにあるのかも含めて、総務省様の御意向も伺う必要はあると思いますけれども、御指摘のとおりだと思います。

ほか御意見ございますか。山崎さん、もう一度お願いします。

【山崎】 今、木村さんがおっしゃった総務省さんに以前後援をお願いしたという件ですけれども、その際はたしかイベント自体をJAIPAさんとJPNICで共催という形にして、2団体で連名で総務省さんの後援申請を出したと思います。

【木村】 はい、そうです。

【山崎】 去年も今年もなんですが、活発化チームができてからは活発化チームの主催ということにしておりますので、主催団体が法人ではないということで、JAIPAとJPNICがまた連名でやればいいのかもわからないですけれども、活発化チームの名前で後援申請を出せないんじゃないかということを危惧しています。

【木村】 そうなんですけれども、そこは活発化チームの構成主要団体2団体の連名で出せばいいかどうか、その辺りは総務省さん御判断じゃないですかね。聞いてみないと分からないと思うんですが。

【加藤】 すみません。今のテクニカルな後援というのができるかどうかという点は、今日は総務省さん、飯田さんはまだ御出席じゃないかもしれませんが、どなたか御出席の方はいらっしゃいますか。

【飯田】 すみません。飯田です。遅れまして……。

【加藤】 ありがとうございます。それでは、飯田さん、お願いします。

【飯田】 後援とか協賛とかというのは、確かにおっしゃるとおり、協賛はお金を出している場合に限られるらしいので選ぶ必要があるんですが、手続的には申請いただければ、そんなに難しいことではないはずですので、もし名義があったほうが信用とか集客とかでよいということであれば、手続を取ってもいいのかなと思います。

一番気になるのはオーナーシップの問題で、マルチステークホルダーでやっているのに役所が別立てで後援しているという見栄えがどうなのかということですが、関係者の皆さんがあまり気になさらないようであれば、そういう形で少しでもアピールができるのであればいいだろうと思いますし、やり方としては多分、後援というのが一番簡単だと思いますが、データ課とも相談してみたいと思います。

確かに提出いただく依頼元が法人でないと引っかかるかもしれませんが、その出し方は御相談の必要があるだろうと思いますが、JAIPAさんとかJPNICさんの連名で出させていただいて、それをもってやればよいような気はします。私もそこは同じ気がしますが、ちょっとそこは確認しておきたいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。飯田さん、非常にクリアになりました。そういう意味でいうと、このIGFの会合、ほかのいろいろな会合でも、過去、さっき木村さんからもお話があったとおり、総務省さんの後援という形を取ったことはあったと思いますし、それによってマルチステークホルダーの形がバランスが取れないとかということではなくて、主体が活発化チームであって、それ自身がマルチステークホルダーでやっていて、後援ということですから、その人たちが主催しているわけじゃないということからすると、そのバランスが崩れるとは思えないので、もし手続的にできるのであれば後援という、皆さん、そういうお名前を使わせていただくのがいいんじゃないかという御意見があるので、その方向で検討させていただくのはどうかと思います。

皆さん、いかがでしょうか。もし総務省様で後援という方法が可能であって、その場合に、活発化チームとして申請できるのであればそれでも結構ですし、その中の団体のお名前が必要なら、実質的に事務局をやっているJAIPAさんとJPNICさんが今までどおり申請の代表をしていただくという方向で御検討いただければと思うんですが、いかがでしょうか。

本田さん。

【本田】 今日ここに出ているメンバーがちょっと少ないということもありますし、プログラムの策定に係ることでもあるので、プログラム委員会に一旦一任していただくというのがいいのかなと思いますけれども、一応、今の方向性としてはやる方向性で、後援とか名義を何らかの形でつけていただく方向性で今話が出ていますので、その点については次週ですか、プログラム委員会もありますので、もしくはプログラム委員会内のメーリングリストもありますので、そこで細かくは打ち合わせていただくというのがよいかと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。細かいところについてはプログラム委員会で進めていただくということで、一応、活発化チームとしては、実はプログラム委員会から活発化チームでぜひ方向を決めてほしいと言われていることですので、JPNICさん、JAIPAさんの名前を何らかの形で出すというのも差し障りない方向で出していただくということと、総務省様で後援ということで御了解いただけるのであれば、細かい中身についてはプログラム委員会で進めていただくとしても、方向性としてはそれでいいということはこの活発化チームの今日の結論にはしたいと思います。

それで本田さん、よろしいでしょうか。

【本田】 はい。そういう意図です。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは、このことはそういう方向で決めさせていただくとして、あとプログラム委員会から御質問のあった点で、IGFの事務局からのビデオメッセージ、これは背景を言いますと、さっき山崎さんから御発言があったと思いますが、9月8日にIGFの事務局のミッションとこの活発化チームの有志がボランティアで参加していただいた方がお会いする機会があって、その場のやり取りの中で、ビデオメッセージを送っていただくことは依頼すればすぐやりますよというのがありました。そういうものを入れるかどうかというのが活発化チームへの御質問だと思いますが、そういうことですね、山崎さん。

【山崎】 はい。そのとおりでございます。

【加藤】 これはいかがですか。もし皆様が懸念とか反対とかの御意見がなければ、過去もそういうビデオメッセージ的なのを、ずっと昔ですけども、送っていただいたり、来年ということもあるので、広く国連の動きを伝えていただくという意味でも、この秋のイベ

ントでそういうビデオメッセージをいただくというのは、方向性としてはいいことかなと思いますが、活発化チームの皆さん、いかがでしょうか。

内容については、恐らく時間の配分の問題とかがあるので、プログラム委員会にお返しすることになると思いますけれども、方向性としては、活発化チームとしてはこういうことをやることについては、うまくいかならぜひやっていただきたいということでお返ししたいと思いますが、いかがでしょうか。

高松さん、お願いします。

【高松】 どちらかという、もし活発化チームの皆さんの中から御意見があれば、ぜひいただいておきたいなと思ったのが、ビデオメッセージをもしプログラムの中に加えるのであればということで、簡単な一、二分程度の来賓挨拶ぐらいがよさそうなのか、もう少し時間をかけて思いなどを語っていただいたほうがよいというふうに御意見としてあるのかとか、そういった辺りの御意見がもしあれば、全部プログラム委員会で考えるよりも活発化チーム全体の意見があれば、そちらも取り込みながら考えられるといいなと思ったので、御意見ある方がいらっしゃいましたらぜひこの場でお伺いしたいです。

【加藤】 ありがとうございます、高松さん。

本田さん、お願いします。

【本田】 似たような観点になるかもしれませんが、あれは字幕とかは入れるんでしょうか。仮に挨拶程度であれば、字幕を入れたり、通訳しなくても日本語化は何とかできるように思いますけれども、もしもう少し長めの、いわゆるショートスピーチのような形になると、それも字幕化するとなると、ちょっと手間がかかるかなという気はするにはするんですが、理想で言えば確かにそういうショートスピーチというか、直接ダイレクトに事務局からのメッセージを送っていただくというのが望ましいとは思いますが、ただ、準備の都合とかも考えると、あまり長いものは準備が間に合わないのではないかなという気もしたりもしますけれども。

【加藤】 ごめんなさい、本田さん、字幕というのは、IGFやICANNでやっているような同時通訳的な字幕という意味ですか。それとも事務局からパワーポイントでしゃべっているものを同時に見せていただくという意味でしょうか、どちらの意味でしょうか。

【本田】 いや、それは私はどちらとも想定はしていませんが、例えば一般的に映像にオーバーレイで上から重ねて字幕を載せるんだったら、それを編集するとかになっちゃうから、どんなもんかなと思うし、どんなもんかなというのは、やる手間と、もしそれを発注するんだったら時間もお金もかかるなという気がするんだけど、短ければある程度何らかの方法で、例えばグーグルの自動翻訳というか、上から重ねる機能もありますので、そういうものを使うとか何とか工夫すればできるような気もしますし、要はお金と時間のかけようかなと思います。今言われたように、横でペープサートみたいにして出すというふうにするのかとか、それはやり方次第という気もするんですけども、そこは懸念事項かなと思います。

【加藤】 ありがとうございます。要するに、英語で来たものを日本語にどうするかということの字幕なんですね。

【本田】 そうですね。完全な逐次訳でなくても、ある程度意識というかですね。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。そういう意味では、山崎さんや高松さんがいいのかどうかあれですけども、英語で来たものはどういたしますかね。プログラム委員会でそこを具体的には議論していないと思いますが、場合によっては英語で来て、あまり長いものでなければ日本語でどこかで翻訳を出すとか、そういう方法があるかと思いますが、何か御意見ありますか。

山崎さん、お願いします。

【山崎】 技術的には可能です。ですから、いただいたビデオの音声を書き起こして、それを翻訳して日本語の字幕をつけるということは、費用はかかりますけれども、費用をかけずにAI書き起こし、AI翻訳で字幕つけ支援ツールでやってやれなくはないですけども、精度はかなり低いので、かなり人の手が必要です。そこは何とかできるかと思いますが、何もなしでやるよりはあったほうがいだろうなということは想像がつきます。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

高松さんも手を挙げていただいたんですか、高松さん。

【高松】 ありがとうございます。私も日本語の字幕なりサポートみたいのがあったほうが、もしかしたら参加者のことを考えると、よりよいのかなとは思いました。あとはどのくらい丁寧にするかという話かなと思っていて、ビデオメッセージ自体に同時に下に字幕が出るようにするのか、運営のロジ周りとか裏方の人が大変かもしれないんですけども、ブロック単位でチャットにペタッと日本語を貼り付けて出すみたいな、そんなやり方もありといえばありなのかなと思ったので、そこは実現可能そうなやり方でやる形になるのかなと思います。

【加藤】 ありがとうございます。お二人の御意見、本田さんもそうですけれども、何らかの形で日本語にする工夫はするということがまず1つあって、2つ目は、国連からのビデオメッセージはある程度中身のコメントもしていただくということでしょうか。今日は開催おめでとうございますというような1分、2分で終わるものではなくて、もう少し中身があるメッセージをという意味でしょうか。この点、翻訳をどうするかということも含めて、プログラム委員会に返す必要があると思いますけれども、いかがでしょうか。

本田さん、お願いします。

【本田】 すみません。一応プログラム委員会に入っているので、簡単に。上村先生の御提案としては、想定パターンとして3つあって、1つは単純な挨拶、2つ目は、2日目の特別セッションでIGF2023への期待を込めたメッセージとして組み込む、3つ目が、会議前から公開できるような事前メッセージとか、会場でも上映はするけれども、イベント告知のウェブ掲載もするような形、その3つのパターンを想定として御提案いただきました。高松さんも今お話しのとおりですけれども、ある程度組み込むのであれば、3分、5分ぐらいはしゃべる内容があったほうがいいのではというふうにありますね。

私の意見を個人的に組み込むとすれば、挨拶はもちろんあったほうが良いと思うんですけども、特別セッションの中で2023、来年は日本でよろしくねというような感じの強いメッセージがあると、そういう明記にはなるのかなと。だから、今言った1番目と2番目両方お願いするというのもよいのではと。字幕とかそういった準備の折り合いがつくのであれば、ぜひ両方希望したいなと思います。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

【木村】 木村です。ささいなやり方ですけれども、ビデオメッセージをもらうときに、テキストも一緒にメールか何かでもらうといいですよ。そうすると、聞き取って書き起こ

して翻訳するよりはるかに楽ですから、もうそれこそ機械を使ってもいいし、楽にできます。すみません、やり方です。

【加藤】 ありがとうございます。そうですね。機械ごと翻訳してすぐ中身をチェックするという方法もあるかと思います。

高松さん、お願いします。

【高松】 すみません。手を挙げたつもりじゃなくて、素晴らしいアイデアだと思って拍手をしました。すみません、失礼しました。

【加藤】 それでは、この内容についてはプログラム委員会に時間とかどの場所というのもお任せするとして、ある程度、中身のあるメッセージをいただいて、それを事前にテキストもいただくことによって翻訳の準備を考えていただくというのが、この活発化チームの意見ということでよろしいでしょうか。皆さん、それはどうもという方がもしあれば御意見をお願いしたいんですが。

今なければ、まずそういう方向で活発化チームとしては意見をプログラム委員会にお返しするというので、それ以外の協議会の主要プレーヤーとかその他有識者から何かコメントをもらうかということもプログラム委員会から質問をいただいているんですが、この辺は協議会の進展具合にもよりますけれども、飯田さん、後で改めて協議会の状況をお伺いしますが、何かの協議会のプレーヤーからこういうコメントをいただくとか、何かそんなことはございますか。先ほど後援ということで、もし総務省様からお名前をいただけるのであれば、同時に総務省様からも何かコメントをいただくとかそういうことがあると思いますが、あわせていかがでしょうか。

【飯田】 そうですね。そこはこれに合わせて立ち上げというか、そういうものができるということを発信できたというふうな意識で進めていたと思いますので、ただ一方で、総務省がというよりは、協議会を代表する立場の方にお話しいただくほうがいいのかと思いますので、そこは相談しておく必要があるかと思います。

【加藤】 ありがとうございます。ただ、後援としての御挨拶もいただける可能性がありますね、場合によっては。その辺は同時にどういう形で後援いただくかも含めて御検討いただくということでよろしいでしょうか。

【飯田】　そうですね。後援という立場でお話しするのは構わないと思います。その中に協議会の話が出てくるというのもあると思いますが、協議会の代表は恐らく総務省ではないんだろうと思いますので、そこの仕分はあるだろうと思います。

【加藤】　分かりました。そういう方向で御検討いただくとして、協議会がそのとき立ち上がっていて、その代表なり主要プレーヤーで御発言いただくということもプログラム委員会で検討いただくというコメントをしますと。それから、総務省様で後援ということで決まっただけであれば、総務省からのメッセージも検討をいただくという、そこまで活発化チームとしてお返ししたいと思いますが、そういう方向でよろしいでしょうか。

特にコメントがなければ、取りあえずそこまでということで、プログラム委員会の秋のイベントの御検討状況についてはこの辺ですが、何か今お話ししたこと以外で御質問とかコメントとかございますか。どなたかあれば。

先ほどから前村さんも御参加いただいてお名前を拝見しましたし、何人かの参加している方がいらっしゃいますが、何か御意見とか御質問ありますでしょうか。

あればまた後でいただくということで、プログラムの最初に戻りますが、飯田様から今の政府としての23年の検討状況、あと、IGFの国連のミッションの方がいらして御対応をいただいたわけですが、その辺の報告や、ほかアップデートいただくことがあればよろしく願いたいします。

【飯田】　ありがとうございます。まず、大きな前進としては、今のミッションの受入れでございまして、皆様にも4日目、水曜日だったかな、御参加いただいたわけですが、当日の御参加いただいた方ありがとうございます。ミッション自体は国連から4名が事前の調査ということで会場候補地の視察をしまして、あとはIGFの関係者と面談するというので、全体で約1週間滞在をしております。会場は3か所見たんですけども、それぞれ今、我々は結果を待っているところですが、それに応じて場所と日程が決まってくるようになります。そして、皆様との会合は非常に喜んでいまして、彼らにとってもよく知った方々もあり、あるいは新しくお会いする方もありで、非常に熱心に準備いただいている様子が分かったということで喜んでくれています。

あの後、オンラインですけども、村井先生、江崎先生とも打合せというか顔合わせをしてもらっていますので、主要な方とはお会いいただいたのかなと思っています。あと総務省にも来てもらいまして、国際戦略局長とは少し意見交換をしています。残念ながら総務審議

官はその日は不在だったものであれですが、また今後いろいろ話をしていきながら協力して進めていきましょうと。今年のエチオピアで、まず来年の日本の開催について話をして、機運を盛り上げながら来年の準備に入っていくと。やっぱりIGFはグローバルの総会1回のイベントではないので、年間を通じて何を議論し、何をデリバリーしていくかということを考えていこうということになっています。

ここ数年の大きなテーマで、ユースとか、特に政策決定者としての国会議員とか、あるいは途上国の参画とか、そういうことが大きなテーマになっているのと、サブスタンス的にはフェイクニュースとか、分断とか、そういうことはやっぱり議論になっていますし、あと、コロナの流れも引き続きありますので、コネクティビティーの話もありますので、そういうことをしっかりテーマとして取り上げて、マルチステークホルダーと政府との、これは2つの別々のグループというわけではないので、本来、対話とか連携ということ自体が本当はおかしいのかもしれないんですが、ここ数年のIGFの議論は、いかに政策プロセスに議論を反映していくかということが大きな課題になっているので、そういうことを少し改善していくようにしようという話をしています。

IGFの準備状況そのものは、我々政府内では予算の処理とかいろいろなことを進めていきますので、今後大きなポイントとしては場所と時期が決まってくるということになりましかねども、それはエチオピアまでに当然決まっているわけですので、どういうふうに見せていくのが一番いいのかですけれども、ブースの検討をぜひお願いしますと言われてますし、ぜひ皆さんとブースで日本の開催、あるいは日本そのもののアピールをしていけるようなコンテンツを考えていければと思っていますところですよ。

あと、IGF直接ではないんですけれども、これと関わる国連のグローバルデジタル協力の中でいろいろ議論をしていって、マルチステークホルダーの今のIGFをどうやって強化できるのかという議論の中に、ハイプロファイルなパネルをつくってそこから強力に発信していくみたいなアイデアが繰り返し出ていまして、今回はリーダーシップパネルということでパネルがまたできています。もともとグローバルデジタル協力の発端が2018年のグテーレス事務総長のハイレベルパネルという、ジャック・マーとビル・ゲイツの奥さんのメリンダ・ゲイツがチェアをやったパネルですけれども、そこから始まっていますので、今回また非常にハイレベルなパネルができて、これがMAGの中だか上だかにできるということになっていて、MAGとの位置づけが今非常に議論になっているんですけれども、その中にグローバルに15名のパネリストが参加をすることになっていまして、フューチャーホスト国として役職上の参加者という形で総務省から総務審議官が参加することになっています。ですので、

そこでもIGFの在り方を議論しながら2023年をそれに沿った形で開催して、2025年の見直しに備えていくというような流れになっていくかなと思っています。

ちなみに、ほかの15名ももう公表されているようでして、多分、ヴィントン・サーフが委員長になるだろうと聞いていますので、そこでどういう議論をしていくかというのも、実際には本来、我々コミュニティーの方とも相談しながらインプットしていくのが理想的だろうかなと思っていますので、23年の議論と一緒にそういうことも議論していければいいのかなと思っています。

ちょっと長くなりましたけれども、以上です。

【加藤】 飯田さん、ありがとうございました。皆さん、御質問とか御意見等ございますか。

本田さん。

【本田】 ありがとうございました。ちょっと今日見ていたら、新着情報のところにG7、来年、日本はG7のホスト国になると承知していますけれども、デジタル・技術大臣会合、群馬県で開催とリリースがありましたので、同じ戦略局の中でもIGFとはまた違いますけれども、国際的な日本の主導力というものが試される時期かなと思っています。

ただ、国民への周知というか、我々は活発化チームということで一生懸命やっているわけですが、政府としての国民へのIGF、もしくはインターネットガバナンスでの日本の取組の在り方というのをもっと広報できるのではないかなという気もしてまして、確かに事件物というか地味なトピックではあるのかもしれないんですが、非常に重要なことであるので、政府としてどう広報していくような流れがあるのかどうなのかというところをお聞きしてみたいなと思うところです。

【加藤】 ありがとうございます。ほか御質問、御意見ございますか。

今、先ほどのリーダーシップパネルのメンバーを映していただいているようですけれども、特にございませんか。

それでは、また飯田さんに御質問等あれば追加でしていただくとして、河内さん、そろそろ参加されていますか。まだでしょうか。

【本田】 加藤さん、すみません。私、さっき手を挙げたつもりだったんですが、いや、自分で当てられたと思ってしゃべってしまいまして、すみません。空に向けてしゃべっていました。今、聞こえていますでしょうか。

【加藤】 ええ。先ほども聞こえていましたけど。

【本田】 そうですか。別に何かここでコメントをもらうものでもないのですが、飯田さんにはぜひそういうことを引き続きお願いしたいというところで、意見ということで結構です。すみません。

【加藤】 ありがとうございます。

河内さんはまだ参加されていないでしょうかね。

もしそうであれば、いずれ参加されたところでまたMAGから御報告をいただくとして、あまり大きな報告はないかもしれませんが、後でお願いしたいと思います。

それでは、前村さんのお名前を拝見したんですが、前村さん、参加されていますか。

【前村】 はい。おります。

【加藤】 よろしければ、組織、仕組み、それから飯田様のお話と重複するかもしれませんが、協議会の関係の何かお話いただくことがあれば、お願いしたいと思います。

【前村】 ありがとうございます。前村でございます。今週、昨日まではAPNIC Conferencesでシンガポールにおりまして、ICANNミーティングが来週クアラルンプールであるんですけども、それに先立って理事会のワークショップということで、今はマレーシアにおりますということです。

それで、組織化ということなんですけれども、前回欠席して大変申し訳ございませんでした。組織化に関しては、IGF2023の挙行を民間から支持をするという形の協議会というものをつくって、それと協調して組織化をやっていくというふうなことで、前回、前々回に御説明をしたということで、その流れでやっていますということです。

それで、協議会は、設立発起人団体を少数の必ず関与しなければいけないような人たちで設立発起をして、それから皆さんをお誘いするという流れで考えています。この辺は総務省

さんと足並みをそろえてというのか御相談しながら、どういう形だと総務省側としても受け入れられるかということで、いろいろと考えていただいています。

それで、協議会との間でどうやって政府のほうで、協議会は民間から具申をして、それを受けていただくというところの辺りのメカニズムというのがそんなに簡単ではなくて、少し思案しなきゃいけないところだったということなんですけれども、協議会がこういうことでやったらいいんじゃないかというふうな提言をすると、それを総務省で受けていただくという感じで、あうんの呼吸という表現をするみたいなんですけれども、そういった形で受け止めていただけるということでもいいんじゃないかということで進んでいます。

それで、設立発起人に対しての御相談というのをもう既に始めていまして、アポイントを取りながら、現在JPNICというところもありますけれども、JAIPAさんは立石さんのほうで今、JAIPAの中の検討を進めていただいているということ。そして、経団連さんに今お声がけをしているところですので、設立発起人で初期の会則、基本的にはIGF 2023ではこういうことをやっていったらいいんじゃないかという提言を形づくるということなので、それ以上のことではないので手弁当レベルでできるんじゃないかと考えていますが、したがって、軽量級の会則を承認できれば、設立発起人で合意ができれば、それをもって設立して、それから皆さんにお声がけをするという流れになっていくと思います。

もう少し足早にできて、今頃もう設立寸前ですぐらいのことが言えたらよかったなと3週間前は思っていたところなんですけれども、それよりも少し遅れてはいるんですが、そうはいっても私も日本にいない間なんですけれども、プロセスは進めながら、来週に御相談をしながら事を進めていくという感じでやっております。

ということで、進捗は進めておりまして、何とか秋イベント、10月の後半には協議会があるという形で、秋イベントをやれたらいいなと考えておりまして、その辺は協議会からの挨拶をしたらどうかという形で、秋イベントのプログラムの中でも既に織り込みながら考えていただいているというところで、それにきっちり組み込めるような形で進めていけたらなと思っております。

私からは以上です。ありがとうございます。

【加藤】 いつもと同じのはずなんですけど、接続がよくないかもしれないので。＜聞き取り不能＞の方で＜聞き取り不能＞教えていただきたいんですが、質問ございますでしょうか。

【木村】 本田さんから手が挙がっていますね。私もその後で結構ですけども、手の挙げ方が分からないので、お願いします。

【本田】 木村さんからどうぞ、お先に。

【木村】 すみません。ありがとうございます。今の話、議事録に書かないでほしいんですけども、JAIPA内で検討が進められているというのは初めて聞きました。すみません。多分、進んでいないと思います。

【本田】 今、音声が途切れているので、続いて私も前村さんへの質問ということでインプットさせていただくんですけども、設立発起人というのは具体的に誰にしようとかというのはあるのでしょうか。発起人なので、ある意味、名誉職じゃないんですけども、組織をつくるときのいわゆる事務的なところで、逆に言うと、対外的に名前が出てしまうところなので、重要なお役目かなとは思いますが、何名ぐらいの方をどういった形でやると。まず事務的な手続のところ、今お話しただけの部分はあるのでしょうか。

【前村】 もちろんです。明確にありまして、JAIPAさん、IAJapanさん、JPNIC、WID Eプロジェクト、経団連というふうなことで今考えています。それで、木村さんからJAIPA内の検討はというお話があったんですけども、立石さんに初期のドキュメント類を見ただきながらお願いしますねとは言ったんですが、連携が十分にすり合わせられていないということかもしれないので、私からも念入りにその辺、コミュニケーションを取ろうと思います。

本田さんの質問に対してお答えはしたんですけども、これで明確でしょうか。

【本田】 はい。分かるには分かるんですけども、僕の一方的な考えかもしれませんが、各セクターが寄り集まってつくるほうがいいのかと思っていて、経済団体側とか、もしくはインターネット運用事業者側というのは入っているんですけども、政府側、パブリックのほうとか、もしくは個人、より消費者側の者、そういった者が欠けているのではないかなと思うので、そういったところはもちろん個人が一人の名前の発起人が入ってくるよりは、消費者側を辯明するような団体が入っていくとかするべきなのかなとも思うんですが、もう少し裾野を広げていくということについてはいかがなものでしょうか。

【前村】 理想的なのは、マルチステークホルダーでそれぞれのステークが設立発起をするというのが理想的だということは承知しているんですけども、できるだけ軽くして、立ち上げて皆さんをお誘いするほうがいいんじゃないかといいいながらやってもこれくら

いのスピードで進むということなので、その辺は御了承いただきたいところだなと思っています。申し訳ありません。

【本田】 事務的なこともあるので、僕にはあずかり知らぬことがあるのかもしれないんですけども、せめて声をかけるだけはしていただけたらなと思います。いわゆる総務省の消費者会合みたいなものに出てくるような団体であるとか、いわゆるそういう団体であるとか、政府もこちらのいわゆるローカルIGFに入っただけの準備が整うかどうか分かりませんけれども、後乗りであっても入っただけのような形には持っていかれたらなと思っていますところですよ。

コメント、以上です。

【前村】 コメント、承りました。

【加藤】 あとほか御質問等ございますでしょうか。

ありがとうございました。高松さんから何か。

【高松】 すみません。さっきプログラムの中で、協議会の方に御挨拶をみたいなお話があったのでコメントなんですけど、まだ正直、協議会というものがどんなものなのかがあまりイメージができていなくて、もし秋イベントで御挨拶をいただくという話になるのだとしたら、少なくとも活発化チームの人たちには、その団体がどういったものなのかといった辺りがもうちょっと皆さんが分かっているような状態になってほしいなと思いました。

【前村】 御指摘、おっしゃるとおりだと思いましたので、できるだけ早いうちにもう少し見えるようにしたいと思います。御指摘ありがとうございます。

【高松】 以上です。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

それでは、前村さん、ありがとうございました。

【前村】 ありがとうございました。

【加藤】 次、まだ河内さんがいらしていなければ、ユース活動に入る前に、先ほどから何度かお話が出ている9月8日、活発化チームが国連の代表団と会っていただいたんですけども、その他、後のほうになるんですかね、早めにお話ししたほうがいいかなと思った

んですが、高松さんから御報告いただけると、皆さんの理解が深まるかなと思ったんですが、いかがでしょうか。

【高松】 IGFミッションがいらっしやったときの。

【加藤】 ときの御報告です。

【高松】 本当に簡単になりますが、すみません。会場提供者側として簡単に報告させていただきます。

まず、いらっしやったのは国連の方4名で、皆さん、メーリングリストでも御覧になっているかと思えますけれども、イベントとしての責任者のお二人と会場の視察のお二人といった4名構成で、活発化チーム側のコミュニティーからは結局14名の方が当日対応しておりました。実際は、全体としてはレポートということで、国内側のIGF関係の活動の経緯であったり、秋イベントの御紹介であったり、日本の準備状況のような御報告をして、それに対してミッション側からもコメント等をいただくという形で進めておりました。

先ほどの飯田さんからの御報告というか共有の中にもありましたけれども、ユースとか委員の皆さんとかの御参画辺りも重視をしているという話をおっしゃっていて、2023に向けてに限らずですけれども、IGFの関心を高めるような活動というのはぜひ今後も頑張ってもらいたいという形のことをおっしゃっておりました。

あとは、AnjaもChengetaiも両方ともなんですけれども、もしIGF事務局側にサポートしてほしいと思うようなことがあったら、ぜひ積極的に声がけをしてほしいとおっしゃっていました。一例としては、過去にIGFに参加登録をした日本人とかのコンタクト情報なんかは必要であれば提供できるといったようなこともおっしゃっていたかと思えます。

あともう一つは、今はJapan IGFとしてはコーディネーターがいないような状態になっているところをお伝えしたところ、Anjaからは今度の2022でのNRIセッションのモデレーターや話者、そういったところにも誰か出られる人がいるのであれば出てもらえればというような形で、もっと積極的な発信ができそうな場があるのであれば出てほしいというコメントがありました。

報告としては以上です。

【加藤】 高松さん、どうもありがとうございました。最初に高松さん、堀田さんにですけれども、すばらしい場所を提供していただいて大変ありがたいと思いました。ありがとうございました。

山崎さん、お願いいたします。

【山崎】 1点だけ補足です。今、高松さんがコーディネーターの件についてお話しいただきましたけれども、私の記憶ですと、かなり負荷が高いので、1人じゃなくて複数いて負荷が分散するといいいんじゃないかとAnjaさんがおっしゃっていたと記憶しています。

以上です。

【高松】 補足ありがとうございます。おっしゃるとおりだったと思います。

【加藤】 ありがとうございます。御存じでない方がいるとあれですけれども、国連のNRI、National and Regional IGFのグループというのは、先ほどから名前が出ているAnjaさんが取りまとめをやっているんですけれども、今回いらしていただいた方ですね。この方が各国でいろいろIGF、我々活発化チームと同じように活動しているIGFと連携を取って、いろいろな情報交換をすると。日本もコーディネーターとして正式に連絡をする人を期待されているんですが、今いろいろ事情があって、一時期参加していただいていたんですが、今はその動きが途切れています。

先方からは、コーディネーターに対して提供されるメーリングリストがあるので、一部のところでは一方通行の連絡はもらっているんですが、日本でこういうことが起こっているということを情報発信する仕組みになっていないので、そこを1人の方に負担がかかるのではなくて、うまく手分けをして日本の情報を提供してくれないかというようなことが議論されたということです。

そういうことでよろしいでしょうか、高松さん。

【高松】 はい。ありがとうございます。

【加藤】 高松さん、どうもありがとうございました。もしまた追加で御質問等があれば後でお願いするとして、今日のアジェンダに戻らせていただきたいと思います。

【高松】 すみません。1点だけ、イベントの件でなんですけれども、写真を最後グループごととかで撮っておりまして、トピックスのような形でJapan IGFのウェブか何かで発

信をできたらなと思ったんですけれども、皆様、そういうことをすることについてもしお考えがあればという意味で、いかがでしょうか。

もし掲載するのがよさそうという話になるようであれば、遅くとももちろん秋イベントの前までにと考えていますけれども、文章などをドラフトして、実際に参加いただいた皆さんにレビューなどをしていただきながら準備を進めていくというふうにしたいと思ったんですけれども、いかがでしょうか。

【加藤】 皆さん、いかがでしょうか。こういう活動をしているという御紹介を簡単にに入れていただいて、写真を掲載するということですが。

本田さん。

【本田】 ごめんなさい。項目9は飛んでしまったんですしたっけ。

【加藤】 いや、戻ります。

【本田】 このところで言おうかなと思っていたんですけれども、対外的に活発化グループのやっていることがよく見えないというような声も散見されますので、今言ったようなこと、活動報告というのはできるだけしていくべきだろうし、撮影されたとか参加された方には了承を取っていただければいいと思うんですが、ぜひそういう報告も含めていただけたらいいし、ただ単に今までのように、今やっている会合の議事録と資料を出せば、それで終わりというものでもないと思いますので、ぜひ広報委員会とか、そういう担当制を設けてぜひやって、継続的に活動していければなと思っているところです。そういう意見です。

【加藤】 ありがとうございます。写真も含めて簡単な報告を公開したほうがいいのかという御意見だと思いますが、ほかの方はいかがでしょうか。

もしそういう流れでよろしければ、いつも高松さんをお願いして恐縮ですが、簡単な案をこのチームのメールリストに送っていただければ、それで進めるという方向で今日は決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【高松】 承知しました。

【加藤】 それではそういうことで、プログラムに戻らせていただきます。先ほど飛ばしてしまいましたが、ユース活動、これは今お話があった国連との会議でもユースの活動

は非常に重要だというコメントも国連の方々からもいただきました。そういう意味で、山崎さんから御報告いただけますでしょうか。

【山崎】 前回から資料についてはあまりアップデートはないんですけども、確かにユースの重要性はすごくあると思います。台湾から御参加いただいていますけれども、日本のユースの人も本来なら今日のミーティングに来てもいいというところできていないというところで、育てていかなきゃいけないということだと思います。

大体こういうことをやるというのはこれまでに列挙してきましたが、今は具体的に動かないと、議論ばかりだと進まないの、ただ、どれぐらい固まったら実際に募集できるのか、具体的には教育セッションが固まらないと募集しづらいのか、これがまだ固まっていなくてもどんどん先に募集して人を集めたほうがいいのか、その辺りを皆さんにも伺いたいんですけども、いかがでしょうか。

【加藤】 いかがでしょうか。山崎さんからは、ユースの企画チームにボランティアしている方もぜひお願いしたいということも同時に上がっていますが、いかがでしょうか。

本田さん、お願いします。

【本田】 その前のところ、立てつけでしたっけ、画面上戻っていただけませんか。要は、簡単に言うと、これはモデル1ということで、NRIに附属してユース活動をつくるということだと思うんですけども、具体的にはユース委員会みたいなものをつくるということでしょうか。分科会というか。

【山崎】 名前はともかく、実質はそういうことになると思います。私一人でできるものではありませんし、かといって、チーム全員でということも難しいので、そういうことになるんじゃないかと思います。

【本田】 今のところ、この会合とかも自主的に参加している学生の方がいるとか、いわゆるユースに当てはまる世代の人が、私が実は30代後半なんですけれども、それより若い人というのは見たことがないので、実質いないに等しいのかなというところなんで、まずは対象年代の人を集めてくることから、広報するところから始めないといけないと思うんですけども、基本的にはやはり自主的な運動にしていくべきだし、それを教えてやるというか、教育活動メインではなくて、最初の火つけ役はある程度大人がやるとしても、もっと自主的なものになっていくべきなので、今ここにあるエンゲージメントとかセッションと

かいうのは、提案ということで大変興味深く拝見したんですが、具体的に何をやるかというのはその中で決めていくほうがいいのかと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。ほか御意見ございますか。できればぜひ自分も山崎さんに加わって、この活動を推進するという方がいらっしゃればいいと思うんですけども、ホンさん、いかがですか。

【ホン】 台湾の経験から見ると、青年たちを集めること自体が困難だと思います。この問題を解決するには、台湾からのアプローチは、各大学の例えば情報工学部や法学部などでいろいろなプログラム、あるいは授業を行うことで、興味がある学生をまず探し出すことが第一歩だと思います。

【加藤】 ありがとうございます。台湾ではかなりIGF自身の活動が活発だというふうにも伺っております。貴重な御意見ありがとうございました。

本田さん。

【本田】 今回の御指摘について、活動案の下にも書いてあるんですけども、いわゆる日本でもそういうインターネット関連の活動をしている団体というか、そういうのもありますので、そういった団体とも連携をする。とりわけ日本は学校経由のアプローチのほうが早いのかなと。個人一人一人というよりも、学校経由からのアプローチというのは結構有効なんじゃないかなと思います。

先般、話をしたときにも、いわゆるインセンティブとなるインターンシップのような形とか、具体的に何か利益になるような形でないと来ないんじゃないかみたいな話もあったんですが、それも確かに一プログラムとして位置づけてはいいと思うんですが、それよりもむしろIGFの活動がより利用者主体であると。要するに、実際にインターネットに接続している、いわゆるZ世代と言われる皆さん一人一人がプレーヤーなわけですから、その一人一人が集まっていろいろ思いをぶつけていくと、そういうふうな方向づけがいいのかなと思っていますので、そのためのエンゲージメントとして、別にそれは絵画コンクールをやろうが、インターネットがこうなったらいいな、アイデアコンテストみたいなのをやればいいのか、それは今ここで決めるほどでもないんですけども、いろいろなアイデアの中でエンゲージメントと教育というものをセットにして、どういう活動をするのかということも含めて火をつけていければいいのかなと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方、御意見ありますか。

どうぞ。

【山崎】 山崎ですけれども、8日の国連IGF事務局の方とお話しした際にもこのユースの件を質問したところ、1番目の教育機関、特に大学の方々、先生たち、教職員の方々が鍵ではないかとおっしゃっていました。ですから、このチームの中には教育機関の関係者の方も結構いらっしゃると思うので、ぜひ御協力いただければと思っています。

以上です。

【加藤】 そういう意味で、ぜひ山崎さん、具体的にこのことを御存じで、そういう話も出た上村先生、それから立石さんも京都の学校とか東北大学で教えていらっしゃる、それから実積先生もいらっしゃるの、そういう方々に具体的なスタートを声かけていただくというのはいかがでしょうか。先ほどのプログラムができることと声をかけるタイミングというのが心配というか御指摘がありましたが、それも含めて、やっぱりどちらも走り始めないと、秋のイベントから何らかのスタートをして来年の活動、2023年につなげていくには、そろそろこの案を実行していただくタイミングかなと思いますから、そこからまずお声がけしていただくというのはいかがでしょうか。

よろしいですか、山崎さん。

【山崎】 分かりました。

【加藤】 それでは、これ以外に何か山崎さんからユースに関しては、御質問とか活発化チームへの御要望とかございましたか。ぜひ活発化チームの中でユースの活動に参加する人を募集しているというのは、それは引き続き、今日の議事録も含めてもう一回書いていただくことですが、何かほかにございますか。

【山崎】 特にほかにはないです。必要なことは話していただいたかと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは、今日の議題の次に移らせていただきたいと思います。チーム会合の運営について、これは先ほど本田さんからは一言これにも関係しますと言っていたいたんですが、特にそれ以外アジェンダはないと思いますが、本田さんからこの議題について何か御指摘いただくことがありますでしょうか。

【本田】　　これ、私が資料を出しますみたいな話になっていたんですけど。ちょっと釈然としないところで口頭だけで申し訳ないんですけども、比較をしたいわけではないんですが、この活発化チームの前の段階でIGCJという団体がありまして、それ以外のところからも活発化チームに参加されている方もいらっしゃるにはいらっしゃるんですが、実はIGCJのときは会合というのはやっていたけれども、どちらかというところと研究発表というか事例報告みたいな半分で、その後運営という感じだったんです。今のやっているほぼ2時間の形式が悪いというふうに言いたいわけではないんですが、それぞれの組織が今言ったように広報の件とか、ユースの件とか、エンゲージメントの件とか、それぞれ分散化していますので、そういったより細かいところについては各分科会を設けて、その中でより突っ込んだ議論をしていくというほうがより理想的ではないのかなと思います。とりわけプログラムのことについてはイベントプログラムということではあるんですが、ノウハウをある程度持っている人たちもいるわけなんで、その方々にメインで、プログラム委員会の中でほとんど決めていただくという形でやればいいと思いますので、いわゆる報告ということであれば、それほど時間はかからないのかなと思います。全体会合としては、今やっているこの会合にこういうふうにやっていきますという報告が各委員会から上がってくるのはもちろんですけども。

それよりも、私は、全体会合というのをもっと形を変えて、今まさに起きているIGF、インターネットガバナンスに関わる、そういったトピック、日本もしくは世界からの情勢報告というものが需要だと思うんです。私も4つのセッション提案の準備、フォローアップを手伝っている中で見つけた情報としては、例えばこの前の4月から1か月の間、総務省の消費者行政第二課でやっているインターネットの海賊版サイトへのアクセス防止検討会というものをやっています、また会合が今週あったわけですけども、まさに今オンゴーイングで進んでいるトピック、そういったものについて半分ぐらい時間を割いて話をすると。日本、また世界でのそれぞれの報告というものをさせていただく。あと残りは確かに運営的なものが半分ぐらい来たらいいのかなと思いますので、2時間という時間がなかなか長いようで短いというのが現状ではあるんですけども、細かいことについてだらだらとここで、だらだらと言うのもあれですけども、細かく話をしていくよりも、この全体会合そのものがIGFについての理解を深めたり、定期的なトピックの確認、そういったものになっていくほうがよいのではないかなというようにお話を提案としてさせていただきたく思ったところです。

今日も今、台湾から御参加いただいている方とか、新しく拝見するお名前の方も幾らかいらっしゃると思いますので、気づいていなかったかもしれません、そういった方々も交えて、よりアットホームな形で運営していければいいのかなと思っていますところ。

口頭のみでお話しさせていただきましたけれども。

【加藤】 ありがとうございます。本田さん、恐らく、この活発化チームのメンバーの方々も、例えばプログラム委員会でいろいろ決めていただいて、なるべく委員会をつくってそちらで対応していくという方向には賛成だと思います。今回ここで議論しているのは、活発化チームで決めてもらいたいということが上がってきたことを中心に議論をさせていただいていると思います。

それから、本田さんの御指摘のもう少しサブスタンスに関する報告とか意見交換の場をつくるというのも、そういうことであればどういう形でやっていくかということで皆さんの御意見を聞きたいと思いますが、前回から話題が出ているように具体的な御提案をいただけるのであれば、ぜひ引き続きお願いしたいと思います。

皆さん、いかがでしょうか。何かコメント等ございますでしょうか。

特になければ、今の本田さんの御提案、さらに本田さんから具体的な御提案として伺うということで、継続検討事項にさせていただきたいと思います。

ということで、河内さんはもう参加されましたでしょうか。今日は御参加いただけないですかね。私の理解では、MAGについてはここ3週間で特に何か大きな動きがあるとは思っていないんですが、何か御存じの方がいれば御指摘いただけますでしょうか。飯田さんがもしMAGの状況も御存じであって、最近こういう新しい動きがあるとか、今度エチオピアに関してこんなことが進んでいるとかということをつけ加えていただくのであれば、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。急に振って恐縮ですけれども。

【飯田】 ちょっと分からないですけれども、多分、最近開いていないと思います。次回、再来週かな、予定されていると思いますので、可能な範囲でフォローしたいと思うんですが、時期的にいろいろ重なる時期になってきているので、もし御報告事項があれば、また次回御報告したいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

ということで、大体今日の議事、予定していた議題はカバーしたと思うのですが、皆さん、いかがでしょうか。何かこれを聞きたいとか、こういう指摘があるとか。

山崎さん、お願いします。

【山崎】 メーリングリストで既にお伺いしていて、何人かはコメントも書いていただいているんですけども、活発化チーム自体を紹介するウェブページをつくってしまして、それを公開できれば、より情報が外から分かりやすくなるかなと思いますので、ぜひコメントをいただければと思います。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。もう既に何人かの方からは、ここに書いたとおりコメントいただいているので、こういう情報を公開していくというのは非常に重要なことだと思いますが、引き続き、このメーリングリスト上でコメントをいただいて、どこかで、山崎さん、取りあえずこのバージョンで提出ということになりますね。これ、次回の活発化チームまでに完成とか、何かその辺のイメージはございますか。もうかなり煮詰まってきたような気もするんですけども、いかがでしょうか。

【山崎】 そうですね。次回までには公開したいですね。秋イベントに前もって公開できたほうが相乗効果があると思いますので。

【加藤】 そういう意味では、今日もかなりコメントいただいているので、あと何日間かコメントを受け付けた上で、7日間のチェック期間を設けるとか、何かそういうことを今決めましょうか。そうしたほうがよろしいでしょうか。

【山崎】 はい。それがいいと思います。ですから、例えば今月中とか、コメントを来週いっぱい募集して、それから1週間ラストコールとかですかね。

【加藤】 今日が16日ですから、ラストコール1週間ということになると、ちょっと休みがいろいろ入ってきますけれども、23日、来週の金曜日までにコメントをいただいて、その時点のバージョンをラストコールということで、1週間後ですから10月1日には確定できるということでもよろしいでしょうか。

【山崎】 30日でもいいんじゃないですかね。

【加藤】 30日が7日がちょうど経過するところですから、30日でフィックスして、ラストコールの1週間後が30日になりますから、それでフィックスをして、30日の夕方には公開できるようにするということですね。

【山崎】 実質的な公開は3日になるとは思いますが。

【加藤】 はい。じゃあ、そういうふうに……。

本田さん、お願いします。

【本田】 公開資料なので、丁寧に準備したほうがいいと思うんですけども、今ぱっと見ている中でも、あまり丁寧に書いていてもいろいろあれなので、第一版としては取りあえずなるべく早いタイミングで公開できるように。この話がされたのはもう時間がたっていると思いますので、21とか22とかで、23は実は祝日になるので、区切って、なるべく今月中に公開できるようにしたほうが、もちろんその後またゆっくりいろいろ検討を加えていけばいいわけであって。

【加藤】 ありがとうございます。今申し上げたのはそのとおりで、23日まではコメント期間で、23日から1週間ラストコールということで、30日の夕方にはフィックスという、ある意味じゃ最短のスケジュールかと思しますので、そういうふうにさせていただければと思います。

今の山崎様の御指摘以外、何か今日忘れたこととかございますか、特にないでしょうか。

それでは、次回の活発化チームの会合なんですけれども、私もスケジュールを見ていたんですが、もともと皆さん、金曜日よりも月曜日のほうがいいのかなというのが今日お集まりの方から見ても感じたんですが、今日はもう一つ、シンガポールに御出張とかいろいろな方の出張が重なっていたというのがあると思いますが、もしよろしければ、私は10月3日の月曜日に戻して、そうしますと、実はその次の3週間後が10月24日になりまして、10月24日にやるということになると、27日の次のIGF会合の前にもう一度この会合ができるということで、そういう前提で10月3日に戻したほうがいいと思いますが、いかがでしょうか。御意見ありますか。

もし特にそれは不都合だという御意見がなければ……。

本田さん、お願いします。

【本田】 すみません。今日、日移したのは、ほかの国際会議とかの都合もあってということで承知をしていますけれども、月曜日が一番ベストなんですかね。月曜日に戻すのは私は構わないんですけども、月曜日って大体ハッピーマンデーということで祝日になりまして、3週間置きではありますけれども、いつかのタイミングではまたかぶるという可能性もあるので、月曜日のほうが週初めで頭もすっきりしてやりやすいというあれもありますけれども、金曜日のほうがあれなのか、ほかの曜日のほうがいいのかというところはあると思うので、考えれば考えるほど悩んでしまうわけですけども。ただ、3日は問題ないですけども、月曜日に戻すとすると、祝日に今後かぶる可能性はあるなという気がします。それだけです。

【加藤】 ありがとうございます。もし祝日の場合は翌日とかで調整するとかということはあると思いますが、もし月曜日を今後変えるということであれば、ぜひ次回までに御提案いただいて、皆さんの総意を取ってもともと月曜日を選んでいたという経緯がありますので、取りあえず今日は月曜日に戻すほうがいいのかと思います。いかがでしょうか。

では、今のところあまり反対はないというふうに勝手に解釈させていただいて、もしスケジュールも今後見直したほうがいいのかということであれば、引き続き、メーリングリストに書いていただくということで、取りあえず次回は10月3日月曜日、5時から7時ということで決めさせていただきたいと思います。

最後に、もう一度言い忘れたことがある方は手を挙げていただいて、今日は20分早めに終わりますけれども、もしなければこれで終わりにしたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、金曜日のお忙しい時間、皆さんお集まりいただきましてありがとうございます。大変有意義な会議ができたと思います。次回は2週間半後、10月3日ということでよろしく願います。ありがとうございました。

<以上>